
研究動態

宋慶齡研究の現階段： 中国大陸と日本の研究を中心に

石川照子 *

はじめに

本稿では、近年多くの成果が現れている宋慶齡研究について、中国大陸と日本の状況を中心に紹介したい。宋慶齡（1893－1981）のその政治指導者として活躍した長い生涯を辿ることは、女性史研究のみならず、民国史、国民党史、近代中国知識人論等の研究においても重要な意義をもつ。ここでは主な研究成果、論点、課題等について述べてみたい。尚、紹介の便宜上、主要文献のリストを一括して文末に掲載した。以下文中では各々に記した番号によって、研究状況を紹介してゆくこととする。

* 日本共立女子大学講師

近代中國婦女史研究 第5期（1997年8月）

©中央研究院近代史研究所

一、研究の展開

〔概要〕

宋慶齡の生前にも、いくつかの言論集（3他）や伝記（34,35）、論文（37）が著されているが、研究が本格的に開始されるのは、その死後のことである。そして現在では“宋慶齡研究”という分野が確立されて、研究成果が続々と現れている。中国大陸では、宋慶齡の死の直後に、追悼文や写真を中心として編纂された記念集が多数刊行され（9,10他）、これをきっかけに研究は本格化してゆく。1980年代の半ば以降、特に伝記を中心とした研究成果が、次々に現れている（16～31,33等）。そして宋慶齡が最終的に共産主義者となつたとする観点が、ほぼ、どの研究にも共通して見られる。また宋慶齡と関係する各地（上海、重慶等）での研究の進展が、特色として指摘できる。尚、研究機関として、北京の宋慶齡基金会（女性や子供の福利事業を担う組織）内の研究室が、資料の収集、整理を行っている。一方日本では、言論集3を翻訳・加筆したものが、生前既に出版されている（7）。戦前日本でも宋家三姉妹の名を知られていたが、宋慶齡の日本における研究の嚆矢は戦後の40を待つ。この論文の後、長く日本において宋慶齡研究は取り組まれないでいた。しかし80年代に入って、久保田博子氏により本格的な研究が開始された（41～53）。氏は当時の資料の綿密な分析を通して、特に宋慶齡と日本との関係を明らかにしている。その他石川照子が、中国民権保障同盟の活動と思想、女性解放と宋慶齡について考察している（54,55）。

〔生誕百周年〕

1993年は宋慶齡生誕百周年の年に当たり、その前後に様々な活動が催された。1月27日の誕生日を控えた1月20日には、北京の人民大会堂で全国政協会議、国務院等主催の公式セレモニーが行われ、宋慶齡基金会製作の記録映画「宋慶齡」が上映された。同映画は、歴史的状況を踏

まえながら、宋慶齡の一生が70分間で簡潔にまとめられている。また出版界でも、1・5・33等が、百周年を記念して相前後して刊行され、研究の進展に大きく貢献した。また1月15—18日に広州で、広東社会科学院主催の「紀念宋慶齡誕辰一百周年学術研討会」が開催された。“振興中華与宋慶齡”というテーマが掲げられた同研討会は、宋慶齡に関する初の学術討論会であった。同種の国際的な討論会は、以後現在まで2回開かれている（宋慶齡基金会主催「宋慶齡与中国的近代化学術研討会」（1994年10月31日—11月2日・於北京），上海宋慶齡研究会等主催「宋慶齡与中国抗日戦争学術研討会」（1995年8月22—25日・於上海）。筆者も広州と上海の討論会に参加したが、中国各地及び香港、日本、韓国等から多数の研究者が出席して、宋慶齡に関する様々な研究テーマが提出され、宋慶齡研究の広がりと深化を感じさせられた。尚、宋慶齡に関する文献及び研究動向については1と2を参照されたい。

二、主な研究成果

[言論集]

宋慶齡の體系的な思想、考え方を汲み取る上で、言論集は大変有用である。3は孫文生誕百周年を記念して出版されたものであるが、その増訂版5は、宋慶齡生誕百周年の際に刊行された。同書は1912年から1981年迄の宋慶齡の文章、書簡、題字等が全部で355篇収められている。6は上海宋慶齡故居紀念館が所蔵する千餘りの宋慶齡の書簡の内、263篇（若干の電報文も含む）が収録されている。時期は1913年から1981年迄のものである。中文による78篇を除いて、全て英文のものであり、私的な手紙の類いが、整理、刊行されたことの意義は極めて大きい。

[記念集・冊子・年譜・辞典等]

記念集、冊子の類は、宋慶齡の死後、多数まとめられている（8～12他）。年譜としては、最も詳細なものとして14を挙げることができ

る。但し後述するところの、国際的な反戦・平和活動に参加した、宋慶齡のモスクワ・ヨーロッパ滞在時代に関する記述は多くない。15は外務省外交史料館の、日本での宋慶齡の行動に関する資料等が引用されている点が特色となっている。13は、『孫中山辞典』（1994年出版）の姉妹編として昨年出版され、宋慶齡の著作、関係人物、思想理論等の分野について、それぞれ多数の項目を収めている。また付録の解題付き宋慶齡関係著作リストは便利である。

〔評伝・伝記・研究書〕

宋慶齡の長く波乱に富んだ生涯は、評伝・伝記の格好の対象となり、既に多数の書が著されている。その中の決定版として、33が挙げられるだろう。著者のI・エプシュタインは、ポーランド生れのジャーナリストで、40年以上にわたる宋慶齡との交友関係をもつ。雑誌『中国建設』の編集長等を務め、現在も中国に在住している。特に多数の書簡（宋慶齡発五百数十通、友人、知人等発のものも）に目を通し、欧文の資料を収集、参照している点で、他の同種の書と比べて際立っており、宋慶齡の活動の国際的広がりをよく著している。

〔論文・小論・記事〕

37は筆者が管見した限りでは最も古い宋慶齡に関する論文であり、その後宋慶齡の死後から現在まで、多くの論文が発表されている。本稿文末の文献リストには、日本の研究を中心に掲載したが、中国、日本の研究共に、テーマとしては宋慶齡の各活動、思想、他の人物との関係・交流が中心となっている。特に孫文死後、宋慶齡の思想の発展と独自の活動の展開が見られた1920年代後半から40年代にかけての時期が、主に取り上げられている（37～40, 45～50, 53～55）。日本での研究は前述した通り、久保田博子氏によって、特に宋慶齡と日本との関わりが考察されている（42, 44, 50, 52）。

〔研究の論点〕

以上簡単に宋慶齡研究の成果を紹介した。紙面の都合で、各研究についての十分な言及はできなかつたが、ここで宋慶齡研究のいくつか

の論点について整理し、今後の研究の参考としたい。第一に宋慶齡の活動についてである。長年の多岐にわたる活動の中でも、国民党左派としての活動と女性解放者としての活動が、その重要な部分を占める。宋慶齡は孫文の遺志を継いで、国民党左派の立場から三大政策の実行を主張し、蒋介石とも鋭く対立する。蒋介石の反共クーデター後のモスクワ・ヨーロッパ滞在時代（1927～31年）を経て、次第に共産党との接近も見られたが、国民党左派の立場は変化したのかどうか。第二の論点として宋慶齡の思想の形成と発展の問題を挙げられる。中国では宋慶齡の枕詞として“愛國主義、民主主義、國際主義、共産主義の偉大なる戦士”という表現が必ずなされるが、果たして宋慶齡は共産主義者に変化したのだろうか。このいわゆる左傾の問題を考える時には、クリスチヤンの家庭で生れ育ち、教会学校とアメリカでの勉学の経験をもつ宋慶齡における、クリスチャニティーの問題の分析を避けて通ることはできない。

おわりに

最後に宋慶齡研究のさらなる発展の為に、今後のいくつかの課題について触れておきたい。まず新たな資料の発掘・整理・研究が必要である。書簡や電報等が、既に研究にも活用されているのは喜ばしい。しかし宋慶齡の活動と思想の発展を考える上で重要な、前述したモスクワ・ヨーロッパ滞在時代については、27, 57という研究があるものの、その詳細はまだ明らかでなく、資料発掘が期待される。さらに宋慶齡の活動の幅広さは、同時代の人物達の研究、宋慶齡の各地での活動に関する研究を必要とする。そして宋慶齡の国際性を明らかにするには、研究のグローバルなネットワーク化が求められるのではないだろうか。

宋慶齡関係主要文献（中文・日文・英文その他）

〔文献目録・研究動向〕

- 1 宋慶齡基金會、北京圖書館編『宋慶齡研究文献目錄（1911—1991）』中国和平出版社、北京、1993年
- 2 石川照子「宋慶齡研究の現状と課題」（『国際関係学研究』第12号別冊、津田塾大学、東京、1986年）

〔言論集〕

- 3 『宋慶齡選集』人民出版社、北京、1966年
- 4 中国福利会編『宋慶齡論児童教育和児童工作』上海教育出版社、上海、1992年
- 5 『宋慶齡選集上・下』人民出版社、北京、1992年
- 6 上海宋慶齡故居紀念館編訳『上海宋慶齡故居紀念館館藏・宋慶齡來往書信選集』上海人民出版社、上海、1995年
- 7 仁木ふみ子訳『宋慶齡選集』ドメス出版、東京、1979年

〔記念集・冊子・年譜・辞典等〕

- 8 『悼念宋慶齡同志資料專輯』〈複印報刊資料（現代史）〉中国人民大学、北京、1981年。
- 9 中華人民共和国民營主席宋慶齡同志故居編『紀念宋慶齡同志』文物出版社、北京、1982年
- 10 『宋慶齡紀念集』人民出版社、北京、1982年
- 11 宋慶齡基金會編『宋慶齡偉大光榮的一生』中国和平出版社、北京、1987年
- 12 中共上海市委党史資料徵集委員會、上海宋慶齡故居管理處編『宋慶齡在上海』学林出版社、上海、1990年
- 13 張磊主編『宋慶齡辭典』廣東人民出版社、廣州、1996年
- 14 尚明軒、陳民、劉家泉、趙楚雲編著『宋慶齡年譜』中国社会科学

出版社、北京、1986年

- 15 久保田博子「宋慶齡関係略年譜」（『辛亥革命研究』第3号、辛亥革命研究会、東京、1983年）
〔評伝・伝記・研究書（宋家三姉妹及び宋家一族についてのものも含む）〕
- 16 孫永猛『女中之傑・宋慶齡』山東人民出版社、濟南、1985年
17 鄭燦輝、季鴻生、吳景平『宋慶齡与抗日救亡運動』福建人民出版社、福州、1986年
18 蔣洪斌『宋慶齡』江蘇人民出版社、南京、1987年
19 張戎、喬恩・哈利戴『孫逸仙（中山）夫人——宋慶齡伝略』中国和平出版社、北京、1988・1992年
20 劉家泉『宋慶齡伝』中国文聯出版公司、北京、1988年
21 呂明灼『宋慶齡伝』〈中国革命史叢書〉上海人民出版社、上海、1988年
22 陳漱渝『宋慶齡伝』北方婦女兒童出版社、長春、1988年
23 蔣洪斌『宋慶齡的足跡』黑龍江人民出版社、哈爾濱、1988年
24 尚明軒、唐寶林『宋慶齡伝』北京出版社、北京、1990年
25 唐寶林『深谷幽蘭——戰時“國母”風采』〈抗日戰爭史叢書〉廣西師範大學出版社、桂林、1992年
26 盛永華『宋慶齡論』廣東人民出版社、廣州、1993年
27 劉家泉『宋慶齡流亡海外歲月』中央文献出版社、北京、1994年
28 陸廷一『宋慶齡全伝』青島出版社、青島、1996年
29 爰辛焞、熊沛彪『孫中山宋慶齡与梅屋庄吉夫婦』中華書局、北京、1991年
30 唐曼珍主編『抗日烽火中的宋氏三姉妹』中華社会科学出版社、北京、1995年
31 於醒民、唐繼無、高瑞泉『宋氏家族第一人』北方文芸出版社、哈爾濱、1986年
32 仁木ふみ子『抗日戰争と一女性——宋慶齡の場合』〈ブックレット

ト生きる〉アドバンテージサーバー、1995年

- 33 Israel Epstein, *Woman In World History Life and Times of Soong Ching Ling (Mme. Sun yatsen)*—, New World Press, Beijing, 1933 (中文訳：伊斯雷爾・愛潑斯坦著、沈蘇儒訳『宋慶齡——二十世紀的偉大女性』人民出版社、北京、1992年。日本訳：イスラエル・エプシュタイン著、久保田博子訳『宋慶齡——中国の良心・その全生涯』上下巻、サイマル出版会、東京、1995年)
- 34 Cornelia Spencer, *Three Sisters The Story of The Soong Family of China*, George Harrap & Co. Ltd., London, 1940
- 35 Emily Hahn, *The Soong Sisters*, Double Day, Doran & Co., Inc., New York, 1941 (中文訳：埃米莉・哈恩著、李豫生、靳建国、王秋海訳『宋氏家族——父女・婚姻・家庭』新華出版社、北京、1985年)
- 36 Sterling Seagrave, *The Soong Dynasty*, Harper & Row, New York, 1985 (中文訳：史葛萊夫作、森森訳『宋氏王朝』龍門文化事業有限公司、香港、1985年。斯特林・西格雷夫原著『宋家王朝』星光書店、澳門、1985年。日本訳：S・シーグレーブ著、田畠光永訳『宋王朝』上下、サイマル出版会、東京、1986年)

〔論文・小論・記事〕

- 37 元伯「宋慶齡左傾記」(『現代史料』第2集上篇、海天出版社、上海、1933年)
- 38 宋志文「宋慶齡的思想發展和革命実践」(中国社会科学院近代史研究所編『近代中国人物』中国社会科学出版社、重慶、1983年)
- 39 尚明軒、劉家泉「大革命洪流中的宋慶齡」(中国史学会編『中国国民党“一大”六十周年紀念論文集』中国社会科学出版社、北京、1984年)
- 40 幼方直吉「回想の国際會議——上海反戦大会(1933年)について」(『中国研究所紀要』第1号、東京、1960年)
- 41 久保田文次・久保田博子「孫文と宋慶齡の結婚の時期について」(『辛亥革命研究』創刊号、東京、1981年)

- 42 久保田博子「若き日の宋慶齡女史と日本」(『中国研究月報』第400号、東京、1981年)
- 43 久保田博子「宋慶齡と孫文の出会いについて——中国革命における宋慶齡の位置付けと関連して——」(『中嶋敏先生古稀記念論集』下巻、汲古書院、東京、1981年)
- 44 久保田博子「孫文・宋慶齡の結婚——辛亥革命70周年 日本における遺跡めぐり(6)」(『日本と中国』日中友好協会、東京、1981年11月5日号)
- 45 久保田博子「中国革命における宋慶齡の位置(その一)——所謂〈宋慶齡の左傾〉について」(『中国研究月報』第423号、東京、1983年)
- 46 久保田博子「宋慶齡における思想の形成と発展(1)」(『辛亥革命研究』第4号、東京、1984年)
- 47 久保田博子「1930年代の宋慶齡を取材して——中国革命における宋慶齡の位置(その二)——」(『現代中国』第58号、現代中国学会、東京、1984年)
- 48 久保田博子「『救亡日報』と宋慶齡の言論——1937~1940年」(辛亥革命研究会編『中国近現代論集 菊池貴晴先生追悼論文集』汲古書院、東京、1985年)
- 49 久保田博子「宋慶齡・1925年——宋慶齡における思想の形成と発展(2)——」(『辛亥革命研究』第6号、東京、1986年)
- 50 久保田博子「宋慶齡と日中戦争(1)——盧溝橋50周年に寄せて——」(『辛亥革命研究』第7号、東京、1987年)
- 51 久保田博子「中国近代史における宋氏一族」(歴史学会『史潮』第22号、東京、1987年)
- 52 久保田博子「宋慶齡と日本」(『近きに在りて』第23号、東京、1993年5月)
- 53 久保田博子「宋慶齡と女性解放運動」(『一橋情報』、東京、1996年5月)

- 54 石川照子「中国民権保障同盟（1932－1933）——宋慶齡の活動を中心として——」（『国際関係学研究』第11号別冊、津田塾大学、東京、1984年）
- 55 石川照子「中国革命のなかの女性解放——宋慶齡」（米田佐代子編『歴史に人権を刻んだ女たち』かもがわ出版、京都、1996年）
- 56 李陽子（載国）「宋慶齡研究」（博士学位論文）（嶺南大学校大学院、1993年）
- 57 Roland Felber, Ralf Hübner, *Chinesische Demokraten und Revolutionäre in Berlin (1925-1933)* (Wissenschaftliche Zeitschrift, Humboldt-Universität zu Berlin, 37. Jg. 1988. Heft 2.)